

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年10月22日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
カンショ	① ナカジロシタバ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② イモキバガ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↗)
(温かんみかん)	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② そうか病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)
	③ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ ミカンハモグリガ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ハダニ類	多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
(タかんカキ)	① かいよう病	やや少	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② 黒点病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 今後1か月の降水量が平年並の見込み
	③ そうか病	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ミカンハモグリガ	やや少	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑥ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○11月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
マン ゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
ト マト	① コナジラミ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
(年 未 出 荷 用) 小 ギ ク	① 黒斑・褐斑病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② アザミウマ類	やや多	↓	やや多	平年の発生量の推移(↓)
	③ アブラムシ類	多	↓	多	平年の発生量の推移(↓)
	④ チョウ目幼虫	多	→	多	平年の発生量の推移(→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	10月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
(か たん か き ん つ)	サビダニ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。早期発見に努め、初期発生では、被害果実を見つけ次第摘果する。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
マン ゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
	ドクガ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。
レ タ ス	ハスモンヨトウ	一部ほ場で本種の発生が確認された。卵は数百個を卵塊として葉上に産み付け、鱗毛で覆う。幼虫は多食性で葉根菜類、果菜類、いも類など多くの作物を加害する。防除対策として、幼虫は見つけしだい捕殺する。特に、卵塊や集団化している若齢幼虫の捕殺が有効である。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくいので、若齢幼虫期に防除する。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年10月22日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	多	↗	多	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	多	↗	多	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘) 新梢の発生量が減少するため
	② マンゴーハフクレタマバエ	多	↘	多	平年の発生量の推移(↘) 新梢の発生量が減少するため
	③ ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
かぼちゃ(一期目)	① モザイク病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	② うどんこ病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗) 開花期~幼果期にあたるため
	③ 細菌病	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	④ アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑤ ハモグリバエ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	⑥ タバココナジラミ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	10月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
かぼちゃ(一期目)	チョウ目幼虫	見取り調査により発生が確認されている。また、ハスモンヨトウのフェロモントラップにおいても今月は誘殺数が増加傾向にある。防除対策として、幼虫は見つけたい捕殺する。特に、卵塊や集団化している若齢幼虫の捕殺が有効である。中齢以降の幼虫は薬剤が効きにくいので、若齢幼虫期に防除する。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年10月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
水 稲	① 葉いもち病	並	-	-	
	② ごま葉枯病	やや多	-	-	
	③ 斑点米カメムシ類	やや多	-	-	
	④ コブノメイガ	多	-	-	
	⑤ セジロウンカ	並	-	-	
	⑥ スクミリンゴガイ	やや多	-	-	
さ と う き び	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マ ン ゴ ー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
オ ク ラ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	10月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	10月の調査施設にてナカジロフサヤガやコシロモンキドクガの発生が確認された。新葉を集中加害するため、施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。

向こう1か月の天候の見通し
 沖縄地方（10月24日～11月23日）

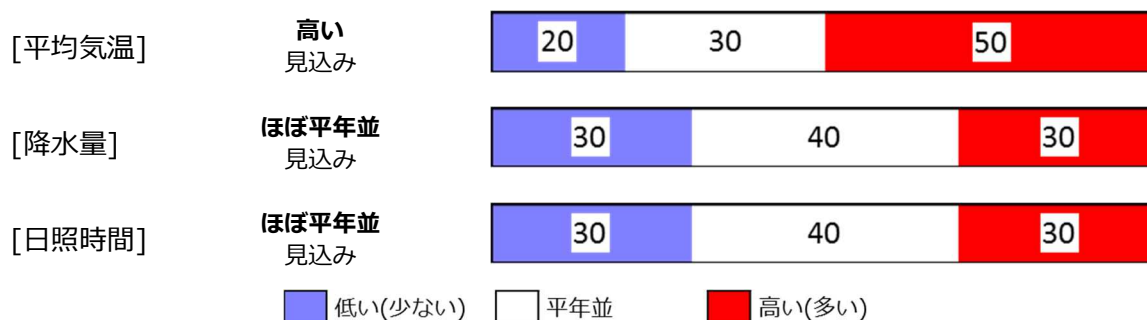
○ 気象予報のポイント

- 向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。
- 向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

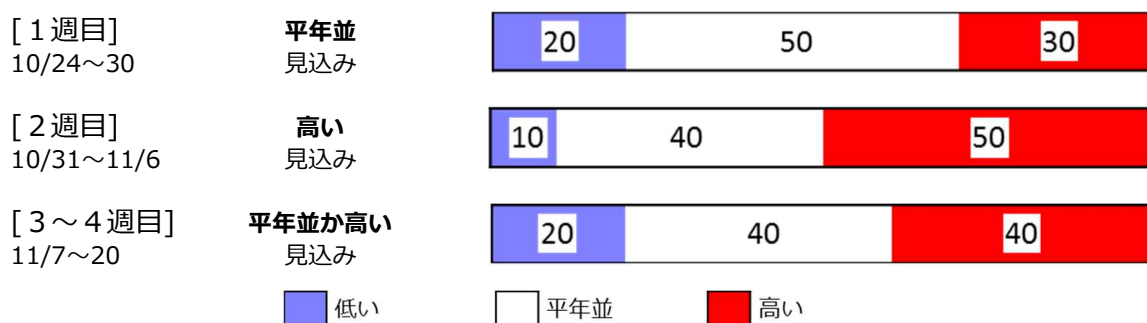


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.4℃	平年比：73～110%	平年比：93～109%
那覇	22.6～23.6℃	65.3～119.0mm	112.9～137.0時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.5～+0.5℃	平年差：-0.5～+0.5℃	平年差：-0.3～+0.6℃
那覇	23.5～24.6℃	22.9～23.9℃	22.0～23.0℃

※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。

※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。